

# 佐野松陽同窓会会報



## 母校に深く感謝

佐野松陽高校同窓会

会長 牧子 充伯

佐野松陽高校同窓会の皆様、お元気で活躍のこととお慶び申し上げます。またこの度、同窓会報を発行できますことは誠に喜びに堪えません。

さて、佐野松陽も本年度創立二十四年目を迎え、同窓会も会員数五千九百人を越えまして、産業界をはじめ、多くの分野で優れた手腕を発揮されておられることでしょう。なかでもプロ野球で活躍中の横浜ベイスターズの戸叶投手をはじめとして、多くの同窓生が活躍されているということは、同窓会としても大きな誇りであり、励みであります。

現在、校舎、第二体育館等の設備も整い、教育環境も整備され、更には、オーソトラリア、ブリスベン・ボーイズ・カレッジ校との

交流等、本校も、大きく進化してきました。そして、情報制御科の設置に伴いまして校名が佐野商業高校から佐野松陽高校へと改められました。そしてその中で我々の後輩達は、「進取・創造・奉仕」の心を忘れる事なく、自然環境に恵まれた学舎で、校風や伝統に更に磨きをかけております。この様に発展してこられたのも、一重に校長先生をはじめ、恩師である諸先生方、歴代PTA役員の皆様、更に地域の皆様のご苦勞とご努力の賜物と同窓会を代表して厚く御礼申し上げます。今後より一層のご支援をお願い致します。

最後に、今後二十一世紀にむけて、時代に即応した産業人が本校より育成され、我々同窓生が就職先で活躍する事が大きな意味で母

平成10年2月10日

編集・発行

栃木県立佐野松陽  
高等学校同窓会

校への恩返しとなります。私達同窓会役員も全員そういう気持ちで活動しております。そして、この同窓会報が、佐野松陽高校の同窓会員の相互交流、会員の親睦になり、今後の同窓会発展にむすびつけられたいと思います。そして今後とも、同窓会に對しまして、一層の御指導御鞭撻をお願い致します。



## 同窓会報の発刊に寄せて

校長 上野 勉

同窓会報の発刊、誠にめでとうございます。本校も創立二十四年目を迎えたわけですが、ここに新たに同窓会報が発刊されることになり、同窓会員五千九百余名の連帯に資するものとしてお喜び申し上げます。

さて、本校は創立二十年目を境として、ここ数年間は、大きい変革がありました。

ご存じのとおり、本校は昭和四十九年に佐野高等学校の商業科が分離独立し、定時制も併置され、現在の出流原の地に栃木県立佐野商業高等学校として設置されました。定時制は、昭和五十二年に佐野高等学校に統合されましたが、全日制は、創立以来、商業科の単独高校として平成五年まで二十年間、有為な商業人の育成に貢献してまいりました。

しかし、地元の強い要望のもと、平成六年度に工業科が併置され、学校名も佐野松陽高等学校に変更になりました。又、それに伴い、従来の校章は、商業の神であるマーキュリーの杖であるカドシヤスをデザインしたものであったので、変更せざるを得なくなりました。新校章は中央部に光り輝く

太陽をイメージした円を配し、その中に、佐野松陽の頭文字であるSSをあしらひ、中央部の円を三方から三本の松葉で囲んでいるものになりました。

更に施設設備も急速に充実され、格技場の移転、工業科の実習棟の新設、第二体育館の建設、テニスコートの整備など大きく変貌しております。本年度も、パソコンの更新が行われ、最新式の機械が導入されております。

なお、本年度の生徒の主な活動状況については、珠算部が全国大会出場、陸上部が砲丸投げで関東大会・インターハイ出場、工業科の情報制御部は県ロボットコンテストでトレースロボットの種目で優勝、相撲ロボット種目で準優勝に輝きました。

校名、校章は変更になりましたが、校歌・校訓など従来の佐野商業高校の伝統を引継ぎ、新生佐野松陽高校として、新たな歴史と伝統を作りつつある所であります。教職員一同、本校教育の充実・発展を目指して、努力してまいりますので、今後とも同窓生諸氏のご支援の程、よろしくお願い申し上げます。

# 会報発刊によせて



副会長  
半田 和也

の絆を深め、さらなる「心のよりどころ」として同窓会を発展させていきたいと思います。



副会長  
赤堀 功

創立二十三年目を迎え、初めての会報紙発刊に至りましたが、同窓会会員の皆様、いかがお過ごしですか……

我が母校は、昭和四十九年四月に栃木県立佐野高等学校から分離独立し、栃木県立佐野商業高等学校として開校しました。平成六年四月より、栃木県立佐野松陽高等学校として新しい校名となる経緯を踏まえて、各界で活躍中の多様な同窓生の中でも「第一期生」として卒業できたことは、私にとつて大いに「誇り」と「自信」を持つております。

創立された当初から十年、二十年と月日をかさね、校舎・体育館をはじめ備品、設備も充実した現在とは違い、広い校庭にボツンと一校舎。雨の後は校庭の隅でソフトボール。野球部は「佐高」のユニホームを借りての公式戦など、初年度にしか味わえない事が数多くありました。また、応援歌は生徒を交えて制定され、迷いの中にも新しい学校の歴史を作るんだという自負が各生徒に自ずと芽生え、先生と生徒の信頼は厚く今にして思えば思い出多き青春時代でありました。

これからも、牧子同窓会々長と共に同窓生や佐野松陽高校生徒と

から、国際化時代の今は、国際交流が行なわれ、オーストラリア研修旅行が毎年開催されるなど、県内では、どこにも負けない高校だと思えます。

## 会報紙発刊に寄せて



同窓会副会長  
田中 博  
(第七回卒業)

佐野松陽高校同窓会々員の皆様並びに先生方、学校関係の方々には常日頃から同窓会運営に對しまして深い御理解と多大な御協力を頂きまして厚く御礼申し上げます。

この度、同窓生と在校生、学校とを結ぶ会報紙が発刊される事となり、平成六年十月、創立二十周年記念事業として作成された会員名簿同様、会員相互の親睦と時を越えた心の交流の案内として生かされて行く事を願っております。

私にとって母校での三年間は陸上競技と生徒会活動を通して、沢山の思い出と、掛替えの無い大切な事を教えて頂きました。陸上部顧問の福田先生、同級生の金子君、酒井君らに支えられ、走る事の厳しさや楽しさ、砲丸、円盤を投げ、記録が伸びたときの喜び、又今市での合宿、関東選手権、そして栃木の葉国体で憧れのトップ・アス

リート達に補助員として接し、その走っている時のフォームの美しさや記録に感動した事など、思い出は尽きません。又、生徒会活動では、交通安全宣言、六校連、唐沢青年の家での研修、体育祭など忙しい毎日でしたが、皆さんに助けられ充実した高校生活を過ごす事が出来ました。同じ時代を、同じ感動をした仲間が居る事は私にとって貴重な財産です。そして私と同じ様に、ひとりひとりの心の中に母校での思い出が刻まれていきます。

最後に、会報紙発刊を契機として、二十一世紀に向けて同窓会がさらに発展されると共に、学校並びに会員の皆様の御活躍と御健勝を御祈念申し上げ、御祝いの言葉といたします。

## 二十二年前の高校時代



副会長  
水戸部 博

同窓会報紙の発刊おめでとうございませう。今年で開校より二十三年目を迎え、卒業してからすでに二十二年の歳月が過ぎ去りました。第二回卒業の私達は、入学は佐野松陽商業科で一年間佐高に通学そして分離独立になり、次の年から学校の場所も校名も変り佐野商業高校になり二年間通学そして卒業、入学、卒業、現在と私達の学



佐野松陽高校新校章

校名も何度かわかり「どれが母校なのかな」と思う時があります。私は在学中にバイク通学でした。当時は道路や校庭も整備されておらず、現在の運動公園の通りも砂利道で何度かバイクで転倒した、ことがいまでも思い出します。

また体育の授業の時はバケツを持って石拾いでした。唯一出来るのがソフトボールで、それでも冬はボールが見えなくなるほどの、砂ぼこりでした。

野球部の夏季大会の時、応援団員として二、三年生の二年間やりました。応援団と言っても夏の大会のために即席で集めたメンバーで結成した応援団でした。二年生の時の応援団長が現同窓会長の牧子さんで三年生の時、私が応援団長になり、応援歌の「燃えよ魂」を歌い、この歌は第一回卒業の三村都夫さんの作詞で、私には思い出のある先輩の一人です。三年生の夏は私なりに暑く燃えた夏だったような思い出があります。最後になりましたが同窓生の皆様方ならびに佐野松陽高校のご活躍とご健康をお祈りいたします。

# 同窓会だより

## 第一回学年同窓会について



立川 宣弘

平成八年十一月二十三日、佐野松陽高校（旧佐野商業）第一回卒業生の第一回学年同窓会を佐野のサンルートに於いて、恩師の皆様と佐野松陽高校校長をお迎えして

開催しました。

会場では、懐かしい顔が一人、また一人と集まり二十数年ぶりという事にもかかわらず、すぐ昔話や現況の話に花が咲きました。恩師の皆様にご挨拶を頂き、昔と変わらぬ口調が当時のままで、

私達は高校時代の教室に戻ったような、そんな気分になりました。何かと所用が多いかと思いますが、久しぶりに旧友と会う事ができ、昔と変わらず話ができて懐かしい一時を過ごすことが出来ました。また幹事の皆様には、苦勞を掛けますが、次回には、今回残念ながら会えなかった旧友にも会えることを楽しみに、期待しております。

## 学年同窓会について



渡辺 秀廣

平成八年八月十七日マリアーヂュ仙水に於いて第十回卒業生学年同窓会を開催いたしました。私たち第十回卒業生の学年同窓会は今回が初めての開催です。当日御出席いただいた諸先生方をはじめ同級生たちのなつかしい姿に、約三時間余りの短い時間でしたが、会



話は盛り上がり仲間たちの成長を確かめ合うようになごやかな雰囲気の時を過ごすことができました。また余興においてはカラオケによるクラス別の合唱や、最後に学生時代の気持ちに戻って全員で歌った校歌と、楽しい思い出として心に残っています。ひとときの時間でしたが、全員の協力ですばらしい同窓会となりました。今後でもできるだけ多くの同窓会を企画、開催し、同窓生お互いの親睦を深めるとともに、佐野松陽の卒業生として誇りをもって頑張っていきたいと思えます。

同窓会員の皆様には、益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。

本校初のプロ野球選手として活躍している戸叶尚投手を紹介いたします。昭和五十年（一九七五）二月四日生まれ。一八一センチ、七五キロ。右投げ右打ち。血液型はO。佐野南中出身。平成十年の年俸三三〇万円。

高校から本格的に投手に転向し二年の夏の大会からエースとして活躍。夏の大会は二年・三年と作新学院に甲子園の道を阻まれてしまいました。二年生の秋季県大会では國學院栃木・宇学・葛生と甲子園経験校を連破し準決勝に進出、関東大会出場を目前にして、優勝した小山高校に破れてしまいました。三位決定戦では、鳥山高相手にノーヒット・ノーランを達成し、星陵高校の松井（現巨人）などとともに、本校初の全国大会となる、明治神宮野球大会に出場を果たしました。平成四年十一月のドラフト会議で、横浜ベイスターズにドラフト五位で入団。プロ入り三年目の平成七年に二勝（十一試合）、八年に一勝（十九試合）を挙げて、五年目の飛躍が期待されています。今年初めて開幕一軍入りを果たし、四月は中継ぎとして登板し一勝を挙げましたが、防御率は9・69と今一歩でした。五月一日のヤクルト戦にプロ初先発・初勝

## 活躍する同窓生

教頭 齋藤 庄作

利を手にとるとトントン拍子に二勝目、三勝目を挙げ、苦しい先発投手陣を救う存在に変身をとげました。5月は四勝（防御率1・23）をあげ月間 MVP も囃られる活躍でした。平成九年は三十七試合で十勝七敗でした。特にヤクルト戦には、五勝をあげヤクルトキラーといわれています。高校時代は、上手からの本格派で140キロ近い速球が武器でしたが、コントロールに弱点がありました。平成七年にサイドスローに転向し、コントロールも見違えるように良くなり、140キロを超える速球は手元でよく伸び、落ちるスライダーと打者に向かっていく強気の性格を武器に、安定したピッチングができるようになり、六連戦の初戦に先発を任されるようになりました。高校時代の練習で、特に思い出に残っているのは、唐沢山の尾根道をランニングでした。体力がついたばかりでなく、苦しい場面でも粘る気持ちが養われたと思っています。今日の活躍の基礎を作ったのは、このランニングであったなあと考えています。今後は、今年の活躍をバネに毎年安定した活躍ができるように努力して、優勝の原動力になるような活躍を期待しています。

会員の皆様には今後とも応援のほどお願い申し上げます。

# 恩師だより

## 同窓会報発刊によせて



武者野 実

本校の創成期・成長期に定年までの十三年間とその後講師で四年間、生徒諸君・教職員・PTAの皆様と親しくご交誼ください、忘れ難い思い出をつくることができましたことを感謝いたします

もとより微力非才でありましたのに一を聞いて十を知る生徒諸君に恵まれ、各界でご活躍なされておりますことは誠に喜ばしく誇りに思っております。

私は無病息災とは言えないまでも元気で過ごしております。

定年後は佐野松陽高校・佐野日大高校そして本年は宇都宮ビジネス電子専門学校で簿記会計、佐野女子高校で消費経済と課題研究を担当しております。

さらに全国高校家庭クラブ連盟より依頼されまして同連盟発行の月刊誌F H J (Future Homemakers of Japan) の消費者情報欄を四月号から一年間担当しております。各月のテーマに従って資料を集めて書いていますが、どう書けば高校生に読んでもらえ

るのか！むずかしい課題なんです。今月号(九月一日メット)の原稿を書いているところです。

暇があれば「読者の声・川柳」などの新聞投稿。その他作文・論文・標語などを投稿して楽しんでいますが「没」は多いんですが頭の体操になります。

また原稿や教材などをパソコンに人力していますので指を使うのは「ボケ」防止になるとか！

古稀を過ぎたこの頃は週休四日制です。で現役時代にくらべれば立ち止まって振り返るゆとりが沢山あります。

皆様も健康で幸せな暮らしを築きつつ活躍くださるよう期待いたしております。

## 開校当時の思い出

栃木県立  
田沼高等学校  
山口 徹

足女校から転動したせい、一年女子クラスの担任となった。入学式は南棟屋上で挙行された。離任式には、佐高商業科の先生が挨拶に見えた。佐高商業科が分離し、佐商校として独立したということ、二、三年生は、黒い学生服で

す。し、新入生のみが新制服を着用するという光景であった。三年生そろっていたので、学校運営上は良かったと思うが、上級生のもまどいは如何ばかりであったろうか。

倍率が二倍を越えたので、クラス五〇名の人数で、柱のはみ出た分狭い教室に、黒板近くまで机が迫ってきた。北棟が建設中のため、騒音をバックに授業が進められ、北棟へ職員室などが引越したのは十二月下旬だった。開校一年目、体育館と柔剣道場が完成、授業や行事に使えるようになったのは、幸いなことだった。その後、プール、生活指導室が五年間のうちにそろうたのは、新設校として早い方ではないかと思った。

生活指導室ができたので、クラス合宿も奨励され、新入生適応指導として、四月からのクラス合宿や九月の修学旅行事前集団訓練が行われた。

新入生や組替えをした上級生が早く友人となじんでもらおうと、唐沢山へのハイキングや赤城青年の家での合宿をしたが、四月末のバス遠足へと形をかえ、以後恒例の行事となった。

受けもちの学年の思い出としては、修学旅行で広島から四国に渡り、太平洋の大海原や坂本龍馬像を見たこと、皿鉢料理に舌鼓をうったことが印象に残っている。また女子生徒全員が武者野実先生の

熱心な指導により販売士検定三級の資格をとったことが特筆される。そういえば、生徒はスポーツや勉強に意欲的にとりくんだものだと、つくづく思う。卓球や剣道の全国大会出場は、渡辺先生や和田先生の指導に依るものがなりの賜と思う。また、大学への進学も三割前後を数えたが、都市銀行や証券会社などの就職など、佐野町立佐野商業学校からの連綿とした先輩の活躍のおかげと、同窓生の活躍に感謝し、閉筆します。

## 佐商そして佐松

栃木県立  
佐野松陽高等学校  
茂木 幸子

同窓会報の発刊おめでとうございます。

「先生、今どちらにいらつしやいますか。」卒業生によく聞かれます。本校創立以来二十三年の歳月が経ちましたが、今なお、佐松で頑張っております。今ここに、その軌跡をたどる時、二十代、三十代そして四十代と、本校と共に歩んだ歳月は、私の人生そのものであると、改めて感じております。また、同窓会の皆様が立派になられ、社会で活躍する姿を拝見し、心から喜んでおります。

思えば二十三年前、屋上での入学式に始まり、校歌や応援歌の制

定をした創成期の佐商時代が色鮮やかによみがえって来ます。校歌に校名を入れない歌詞は当時としては斬新なものでした。私の恩師の飯田隆先生に作曲を依頼したわけですが、校名変更の後、本校校歌として変らず歌えることを大変喜んでおります。

創成期の音楽部にも思い出が尽きません。佐高から分離独立する際にもらった来た楽器は、赤サビでいて、演奏すると手や制服にそのサビがくっついて、生徒を悩ませたものでした。合宿所ができる前、特設風呂での入浴や音楽室にゴザを敷いて泊まったことなど、不自由を楽しさに変えたあの頃がなつかしく思い出されます。

担任としての思い出も尽きませんが、残念ながら紙面の都合上書くことができません。

佐松での歴史の中で、私に大きな影響を与えたことと言えば、それは本校の国際交流です。プリズベン、ボーイズカレッジいわゆるBBCとの交流は九年続いております。BBC生徒のホームステイ受け入れや、オーストラリア研修旅行の参加は、私を変え、私の家族の生活と考え方を変える大きなものでした。いつの間にか国際化した我が家は自分でも驚くほどです。外国に友を持つ喜びはもちろんですが、このことを通して生徒や同僚や地域の人たちと、交流が増えていることも嬉しいことです。



栃木県立足利  
商業高等学校  
齋藤 武男

同窓会報創刊おめでとうございます。六、〇〇〇名を越え、牧子会長はじめ同窓会役員並びに会員皆様の益々のご活躍・ご発展をお祈りいたします。

さて、私は県立佐野高等学校商業科が昭和四十九年分離独立以来二十一年間勤務し、現在は隣接の県立足利商業高等学校に勤務しております。在勤中は、良き卒業生に恵まれ7度も担任として卒業生を送り出すことができ、懐かしく大変感謝しております。

分離独立当時にラグビー部の顧問としての思い出は、宇工高との決勝戦が大雪で、グラウンドが白一色の中で花園への栄冠をかけて試合が行われ十分に実力を発揮できずに敗退という、残念な記憶があります。又、ラグビーではもう一つ忘れられない思い出があり、それは現在でも交流のあるオーストラリア国クインズランド州ブリスベン市のブリスベン・ボーイズ・カレッジ校(BBC校 当時グラハム・E・トムソン校長先生)とのラグビー交流です。

BBC校は、当時のAET教師として佐野商業高校へ勤務していたマーティン・J・ダーバニーザ



先生の母校であり、一九八八年に栃木県ラグビー協会の招待として県内各地にホームステイしながら佐野をはじめ県内の高校生と親善ラグビー交流試合が行われました。これを契機にその後関係者各位のご努力で国際交流の絆が強くなり、現在でもその思いが在校生に引き継がれながら、早いもので十年の歳月が経ち当時のことが懐かしく偲ばれます。

最後に、佐野松陽高等学校のますますのご発展と佐野松陽高等学校同窓会並びに会員皆様のご清栄とご健闘を心から祈念申し上げます。

Good Luck!

## 佐松野球部に栄冠を

野球部顧問 川口 浩正

平成九年七月二十二日午後二時四〇分県営球場にて対作新高校戦八対二で敗れた。川村主将率いる工藤・秋山・岡部・松田・久保田以上三年生六名の夏が終わった。私がこの四月に本校に赴任してきて、たった四ヶ月間の付き合いだったが記憶に残る印象深い選手達であった。彼らを見ていると十年前の自分が思い出されるのだ。

監督としても一度野球をしたい。そして甲子園に行きたい。」と決意し、今に至っている。現在我が野球部は二年生五人一年生四人の計九人の選手と四人のマネージャーとで第五〇回秋季県高校野球大会対足工戦に向け必死に練習をしている。

到着した時のことである。その後の私の人生を大きく変えることになった最後のミーティングが始まった。試合の反省に始まり、それまでの三年間の出来事などを振り返っている途中何と監督の目から涙が落ちたのだ。「お前達と一緒に野球ができて最高だった。」その一言に私はとても感動し「俺も

昭和四十九年創部以来佐松野球部OBは総勢二四〇人は各界で様々活躍をしている。中でも平成四年度卒業の戸叶君の活躍ぶりは素晴らしいものである。そして伝統ある本校野球部の監督を務めてきた

私は昭和六〇年四月に本校(佐野商業高校)入学と同時に野球部に入学した。毎朝六時起床、七時にはグラウンドで早朝練習をし、一汗かいてから授業へ出、もちろん放課後の練習も待ち遠しく、チャイムが鳴るやいなやユニホームに着替えて外へ飛び出していったものだった。そんな野球が出来るといううれしさや楽しさでいっぱいだった自分の姿が今でも鮮明にみえてくる。当時の本校は今よりも部活動が活発で放課後になると学校中の至る所で生徒達の元気な声が響きわたっていたものだ。

そんな私の高校時代は、今でも尊敬する監督との最高の出逢いがあった。我々三年生最後の試合、現在横浜ベイスターズで活躍中の石井投手率いる足工戦で七対二と敗れてしまい球場を後にし学校に

た齊藤・井腰・茂呂・金子諸先生方の築き上げてきたものの大きさを改めて実感している。私はこれら多くの人々のつくり上げてきたものを大切に、母校で再び野球が出来る喜びを胸に我が校のあの素晴らしい校歌が一回でも多く球場に響き渡るよう選手共々頑張っていこうと思う。どうかこれからも佐野松陽高校野球部への応援をよろしくお願いします。



## 部活動紹介

## 夢に向かって

陸上部顧問 増尾 博史

決して、投擲の選手として、恵まれた体格とは言えない彼女の右手から離れた一本の「やり」が、奇麗な放射線を描きながら四十メートルの表示板付近を僅かに超え突き刺さった。記録掲示板が一回転した。四十メートル、彼女の顔に安堵感とも言える笑顔が戻った。

一本目、三十八メートル、二本目三十メートルと、完全に失敗である。スタンドで観戦している私の胃が疼きだした。二本目の試技が終了して、出場選手二十四名中六

番目の記録であった。

出場選手中各県予選通過記録は三番手、四十メートルを超えている選手は彼女を含め四名。しかしなにが起ころか分からないのが大会、ましてや投擲種目は尚更である。僅か三月の顧問ではあるがそれは感じていた。不安が脳裏をかすめた。そんな中で三本目の試技が始まった。ピット内の彼女の緊張感がスタンドにいる私の所まで伝わって来るようであった。右の手から離れた「やり」は彼女の夢を乗せて、数秒の後、緑色の大地に突き刺さった。

彼女「川村梨花」が、自分の力で夢を現実の物にした瞬間である。予選通過三位、他の選手も決勝ラウンド記録が伸びず、堂々の関東高等学校陸上競技大会、北関東ブロック三位、全国大会への出場権を獲得。梨花おめでとう！

珠算部顧問 亀和田秀樹

平成四年に私が本校珠算部の顧問になり、毎年あと一歩という所で全国大会の切符を手につかず、涙を飲んできましたが、晴れて平成九年の昨年珠算部員として顧問の夢（目標）をようやく叶えることができました。この夢を叶えることができたのも部員一人一人が毎日の厳しい練習を重ね、自分自身の持っている最大限の力を発揮



高等学校珠算競技大会 会場

し、今日まで頑張ってくれたからだと思います。その中でも、栃木県代表選手となった関美津子さん、梅澤利江さん、清水美由紀さんの三名には、改めて健闘を称えたいと思います。

また、全国大会では、入賞はできなかったものの、佐松の名に恥じることなく、精一杯頑張り練習以上の成果を上げ健闘しました。最後に、今年の珠算部の合言葉（目標）は、目指せ長崎！（今年の全国大会開催地）です。二年連続全国大会出場を果たせるよう指導していきたいと思いますので、同窓生の皆様今後も温かく見守っていただきたいと思います。

## 進路指導部より

本校も工業科を設置して四年が経ち、平成九年四月には工業科の初めての卒業生を出しました。進路についても、少しの不安がありましたが、何とか生徒の希望をある程度かなえることができました。特に就職については、ここ数年の不況により厳しい状況が続いていますが、同窓生の方の活躍により、本校の評判もよく多くの求人があり助かっております。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、現在の三年生の状況をここでお知らせしたいと思います。本校ではここ数年、進学五割、就職五割の進路状況であります。今年もほぼ同じ傾向で、十一月一日現在で就職の方も九割以上が内定をいただけており、残り数名の者も近いうちに落ち着きそうです。これから進学の推薦入試が本番となりますが、入試に向けて生徒教員一丸となって頑張っております。進路と同窓会とは直接結びつかないように思われますが、実はみなさんの活躍がそのまま本校の在学生の進路に結びつくのです。そう言う意味でも皆様の益々の活躍を期待しております。



## 編集後記



今回、同窓生各位の要望により本紙を発刊するに至りました。母校が佐野高校から分離独立して早二十三年が経過し、会員数も約六千名を越え、各界および公私に渡り御活躍されていることは、同窓会としても大きな誇りであると思います。

本紙が、同窓生各位の佐松生（佐商生）だった時の青春のページを開く機会になれば幸いです。

最後にこの同窓会報の刊行にあたり、職務ご多忙の中で玉稿を賜った多くの方々、また編集にご協力いただいた関係各位に深く感謝を申し上げます。

末筆ながら、佐野松陽高校のますますのご発展をご祈念いたします。